

### 建学の精神 EST. 1935 (昭和10年)

- ・キリスト教に基づく人格教育を行います。
- ・専門教科による職業教育を行い、有能な人材を育成します。
- ・自主独立の精神を養います。
- ・国際交流による国際理解教育を行います。

<b>普通科</b>	<b>看護科</b>	<b>商業科</b>
特進コース	看護科	商業コース
普通コース	看護専攻科	美容専科 コース
健康福祉コース		製菓衛生師 コース
保育コース		
インターコース		
一貫コース		

### 卒業証書授与式 第65回 (通算74回)

3月3日(火)、第65回(通算74回)卒業証書授与式がありました。校長より一人ずつ証書を手渡された卒業生345名は、3年間の高校生活を思い浮かべながら感謝を以て受け取っていました。



### 健康福祉コース 修了証授与式

2月20日(金)、平成26年度介護職員初任者研修・難病患者等ホームヘルパー及び同行援護従業者修了証の授与式がありました。「自信と誇りを持って介護にあたって下さい」と訓示をもらった19名の授与者たちは緊張感が取れ記念写真に笑顔で写っていました。



みんな笑顔で  
記念写真を撮りました。



### 看護専攻科卒業証書授与式

第44回卒業証書授与式が、3月6日(金)短期大学の礼拝室で行われました。卒業生75名は5年間の学びを終え看護師としての自覚と使命感を以て学び舎を去りました。



感動的な式でした。

### 保育コース 卒業制作発表

2月19日(木)、3年生による卒業制作の発表会がありました。多くの職員生徒の前でパネルシアターを披露しました。パネルシアターとは、パネル布を貼った舞台に絵(または文字)を貼ったり外したりして展開する、おはなし、歌あそび、ゲームをはじめとする教育法、表現法の一つで11月下旬から制作に入り練習を重ね当日を迎えました。それぞれの班が趣向を凝らした内容に会場からも拍手が起こっていました。



## 修学旅行

## 志賀高原スキー教室

2年生 321 名が、2月9日（月）～13日（金）の4泊5日の日程で、長野県の志賀高原へスキー修学旅行に行きました。九州ではめったに見られない雪景色に感激しながらもスキーを楽しんでいました。上達の速い生徒たちは、次々と上級コースへ向かっていました。また、ナイタースキーも6割近くの生徒が参加し、昼間とは違ったスキーを楽しんでいました。特別病気もなく全員無事で、全日程が終了したことに感謝します。



ナイタースキー  
を楽しみました。



## 美容専科コース

## 卒業制作展示

2月20日（金）まで、卒業制作の一つとしてヘアスタイルの展示があり、それぞれ個性あふれた作品の仕上がりに、見学に来られた先生方は作品の完成度の高さに驚いていました。



## 定期演奏会

## なかまハーモニーホール

3月7日（土）、第8回定期演奏会がなかまハーモニーホールでありました。今年は、ゲストにアルトサクソフォン奏者の寺田幸司先生をお迎えし、「チャルダッシュ」を共演しました。520名の聴衆者はその音色に共感していました。



演奏中の寺田幸司  
先生

## 平成27年度新入生・保護者説明会

日時：平成27年3月18日（水）  
午後1時30分  
場所：パターソンホール4F講堂

## 製菓衛生師コース

2月19日（木）、3年生による教職員を招待した謝恩会がありました。日頃の感謝を込めて3年間の実習の集大成として6班に分かれ、約20種類（パウンドケーキ・ロールケーキ・洋ナシのムースケーキ・ブリュレ・生チョコ・トリュフ・シュークリーム・ストロベリームース・キッシュ・シフォンケーキ・イチゴタルト・オレンジケーキ他）のスイーツを作り振舞っていました。先生方からも好評で「商品として売れるのでは」と感想を述べておられました。



## 「草創期の黒田藩と栗山大善」 黒田家と宇都宮家の抗争⑦

秀吉から討伐の方法を任されて帰国した官兵衛でしたが、中津城の築城に取り掛かっていた日々は多忙を極めていました。黒田家と宇都宮家の間には和議が整い、婚姻も結ばれて、豊前にひと時の平和が訪れますが、官兵衛にしてみれば、如何にして早期に決着を図るか、その時期を狙っていました。天正十六年も押し迫った十二月、新装なった中津城に移ります。たまたま、天正十七年（1589）三月、秀吉の命を受けて、肥後の検地に赴くことになった官兵衛は、好機到来とばかり、宇都宮朝房を同道して肥後で殺害、鎮房の謀殺は、朝房の肥後出陣中に、中津城に誘いこんで謀殺することにしました。長政からの再三の招聘に、疑いを抱いた鎮房は、朝房不在を理由に断りますが、日取りは太閤殿下の内諾の上だと、脅迫的に誘いだしたのです。天正十七年（1589）四月二十日のことでした。鎮房は家来二百余命を連れて城井城を出て中津の合元寺に入り、数名の屈強な従士を連れて城内に入ります。城内では手配どおり酒肴の膳が出され、丁寧な接待が始まります。予てから打ち合わせしていた通り、長政の『太郎兵衛、肴』の声に、三宝に肴を載せて入ってきた太郎兵衛は、突然三宝を鎮房に投げつけ、これを合図にすかさず太郎兵衛は鎮房に斬りつけ、鎮房は突然の不意打ちに手向かいも出来ず、殺害されてしまいます。

小田弘之著書「草創期の黒田藩と栗山大善」より